

# 令和 7 年度労働安全衛生研究評価部会 報告書

令和 8 年 6 月

独立行政法人労働者健康安全機構

# 目次

|    |                                                          |    |
|----|----------------------------------------------------------|----|
| I  | 令和7年度 労働安全衛生研究評価部会                                       | 1  |
| 1  | 開催概要                                                     | 1  |
| 2  | 評価課題一覧                                                   | 2  |
| 3  | 評価対象課題の研究概要及び評価結果                                        | 3  |
|    | (1) 【プロジェクト研究・事前評価】トラック運送業の過重労働対策支援と有効性に関する調査研究          | 3  |
|    | (2) 【プロジェクト研究・事前評価】氷・雪に起因するすべり転倒防止に関する研究                 | 5  |
|    | (3) 【プロジェクト研究・事後評価】腰痛予防と持ち上げ重量に関する研究                     | 7  |
|    | (4) 【プロジェクト研究・事後評価】吊り上げ用具類の寿命予測手法の開発                     | 9  |
|    | (5) 【協働研究・事後評価】有機粉じん毒性評価のための包括的基盤構築                      | 11 |
|    | (6) 【行政要請研究・事後評価】建設工事における重量物の支持を行う仮設物の安全対策に関する研究         | 12 |
|    | (7) 【行政要請研究・事後評価】理工系大学等における技術者育成を目的とした安全衛生教育の展開方法についての研究 | 13 |
|    | (8) 【協働研究・中間評価】行動災害防止に関する総合的研究                           | 13 |
|    | (9) 【協働研究・中間評価】先進医学解析技術を用いた職業性肺疾患の基盤的研究                  | 15 |
| II | 労働安全衛生研究評価部会委員及び専門委員名簿                                   | 17 |

## I 令和7年度 労働安全衛生研究評価部会

### 1 開催概要

#### (1) 日時

第1回 令和8年 1月20日(金) 11:00～16:55

第2回 令和8年 2月 6日(火) 15:00～16:55

第3回 令和8年 2月16日(月) 14:00～16:55

#### (2) 場所

労働者健康安全機構本部大会議室及びWEB

#### (3) 出席者

##### ① 委員及び専門委員(出席及び審査:34名)

第1回 委員(出席及び審査:5名)

専門委員(出席及び審査:8名)

第2回 委員(出席及び審査:5名)

専門委員(出席及び審査:4名)

第3回 委員(出席及び審査:6名)

専門委員(出席及び審査:6名)

## 2 評価課題一覧

| 種別   |    | 研究課題名                                   | 研究代表者     |
|------|----|-----------------------------------------|-----------|
| 研究   | 評価 |                                         |           |
| プロ研究 | 事前 | トラック運送業の過重労働対策支援と有効性に関する調査研究            | 松 元 俊     |
| プロ研究 | 事前 | 氷・雪に起因するすべり転倒防止に関する研究                   | 柴 田 圭     |
| プロ研究 | 事後 | 腰痛予防と持ち上げ重量に関する研究                       | 岩 切 一 幸   |
| プロ研究 | 事後 | 吊り上げ用具類の寿命予測手法の開発                       | 山 際 謙 太   |
| 協働研究 | 事後 | 有機粉じん毒性評価のための包括的基盤構築                    | 梅 田 ゆ み   |
| 行政要請 | 事後 | 建設工事における重量物の支持を行う仮設物の安全対策に関する研究         | 高 橋 弘 樹   |
| 行政要請 | 事後 | 理工系大学等における技術者育成を目的とした安全衛生教育の展開方法についての研究 | 濱 島 京 子   |
| 協働研究 | 中間 | 行動災害防止に関する総合的研                          | 高 橋 明 子   |
| 協働研究 | 中間 | 先進医学解析技術を用いた職業性肺疾患の基盤的研究                | 山 野 荘 太 郎 |

※プロ研究・・・プロジェクト研究の略

※行政要請・・・行政要請研究の略

### 3 評価対象課題の研究概要及び評価結果

#### (1) 【プロジェクト研究・事前評価】トラック運送業の過重労働対策支援と有効性に関する調査研究

##### ① 研究目的

トラックドライバーの業務は、時間外労働の上限規制の猶予期間が終わり、2024年4月より年間960時間の上限規制が適用された。また、同時に改正された自動車運転者の労働時間等の改善のための基準（改善基準告示：拘束時間が1か月で284時間以内、勤務間インターバル11時間以上など）も適用が始まった。

労働時間規制が強化されることにより長時間労働が減る一方で、従来の輸送能力を維持するために、勤務の不規則化、労働密度の上昇や休憩時間の減少などの新たな過重労働の問題が懸念される。実際にトラックドライバーはコロナ禍の宅配便取り扱い個数の増加等により死傷災害が増加しており、また過労死多発職種であることから、過労死等防止対策推進法や第14次労働災害防止計画においては重点的に対策を立てるべき職種となっている。

トラック運送業では職場や個人ごとに過重労働の様相が異なることが考えられるため、それぞれの働き方の特徴に合わせた過重労働対策を支援するツールが求められる。本研究では、以下の3点を行うことを目的とする。

##### 1) 好事例収集：

トラック運送事業者を対象としたアンケート調査により、労働時間等の新しい規制に応じた改善実施状況の把握と、改善方法に関する好事例と過重労働対応を困難にしている問題点の収集を行う。

##### 2) 働き方・休み方の実態調査：

トラックドライバーを対象とした観察調査により、労働時間等への改善策を実施した職場における、労働・休息の実態を客観的・主観的測定から明らかにする。

##### 3) 「過重労働対策カタログ」の作成と有効性の検証：

過重労働に関連する職場の問題点の把握と、改善取り組みの好事例を職場ごとに自由に選択・実施ができるようにカタログにして公開し、その有効性の検証を行う。

##### ② 研究実施期間

令和8年度～令和10年度

##### ③ 評価結果

| 評価項目   | 評価内容                                                                   | 評価点          |
|--------|------------------------------------------------------------------------|--------------|
|        |                                                                        | (委員及び専門委員平均) |
| 1 目標設定 | 労働現場ニーズ、行政ニーズを踏まえ、労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する目標設定となっているか。具体的かつ明確に達成目標が示されているか。 | 3.4          |

|                |                                                                                                          |     |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 2 研究実施計画       | 研究目標が達成できる適切な研究実施計画（スケジュール、研究体制、予算）となっているか。適切な費用対効果が認められるか。                                              | 3.3 |
| 3 研究の成果の活用・公表  | 学術的に意義のある研究の成果が得られる可能性があるか。学術誌、労働安全衛生総合研究所（以下「研究所」という。）等の刊行物、国内外の学術会議等における公表を行う計画は適切か。                   | 3.1 |
| 4 行政への貢献度      | 得られる研究の成果が行政施策の企画・立案に貢献できる研究実施計画となっているか（行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に活用できる等）、又はその可能性があるか。 | 3.0 |
| 5 協働研究としての視点   | 機構内の複数の施設が有する機能等を活かした研究となっているか。機構内の複数施設の職員間の情報共有や連携体制が加味された研究実施計画となっているか。                                |     |
| 6 その他の視点       | 上記１～５以外の評価内容（学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。                                               | 3.1 |
| 7 内部評価の客観性・公正性 | この研究に対する施設内部での事前評価結果は、客観的かつ公正なものであるか。                                                                    | 3.7 |
| 8 総合評価         | １～７を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。                                                                                | 3.3 |

## (2)【プロジェクト研究・事前評価】氷・雪に起因する労働災害防止に関する研究

### ① 研究目的

広く一般的な対応可能性が高い氷・積雪面側の対策に着目し、すべり防止として氷・積雪面に散布する砂の粒径や量の好適条件を明らかにすること、靴底として開発された乾燥・濡れた氷面の両面において高い摩擦係数を示す不織布材料の氷・積雪面用耐滑シートとしての有効性を明らかにすることを目的とする。

また、氷面や積雪面でのすべり転倒災害について統計的傾向を明らかにすることを目的とする。その上で統計的傾向より、氷雪上のすべり転倒に及ぼす認知的要因の影響を実験的に明らかにする。これらの知見を活かして氷あるいは雪によるすべり転倒災害防止を目指す。

### ② 研究実施期間

令和8年度～令和11年度

### ③ 評価結果

| 評価項目          | 評価内容                                                                                                     | 評価点          |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
|               |                                                                                                          | (委員及び専門委員平均) |
| 1 目標設定        | 労働現場ニーズ、行政ニーズを踏まえ、労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する目標設定となっているか。具体的かつ明確に達成目標が示されているか。                                   | 3.3          |
| 2 研究実施計画      | 研究目標が達成できる適切な研究実施計画（スケジュール、研究体制、予算）となっているか。適切な費用対効果が認められるか。                                              | 3.3          |
| 3 研究の成果の活用・公表 | 学術的に意義のある研究の成果が得られる可能性があるか。学術誌、労働安全衛生総合研究所（以下「研究所」という。）等の刊行物、国内外の学術会議等における公表を行う計画は適切か。                   | 3.3          |
| 4 行政への貢献度     | 得られる研究の成果が行政施策の企画・立案に貢献できる研究実施計画となっているか（行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に活用できる等）、又はその可能性があるか。 | 3.1          |
| 5 協働研究としての視点  | 機構内の複数の施設が有する機能等を活かした研究となっているか。機構内の複数施設の職員間の情報共有や連携体制が加味された研究実施計画となっているか。                                |              |
| 6 その他の視点      | 上記1～5以外の評価内容（学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。                                               | 3.1          |

|                |                                       |     |
|----------------|---------------------------------------|-----|
| 7 内部評価の客観性・公正性 | この研究に対する施設内部での事前評価結果は、客観的かつ公正なものであるか。 | 3.3 |
| 8 総合評価         | 1～7を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。             | 3.3 |

### (3)【プロジェクト研究・事後評価】腰痛予防と持ち上げ重量に関する研究

#### ① 研究目的

重量物取り扱いに関する安全衛生管理基準は国により異なる。これは、作業者の安全衛生リスクが異なることにつながり、管理を難しくする。このようなことから、重量物取り扱いに関する共通した安全衛生管理基準が必要であり、ISO11228-1（2003）はその基準になると考えられる。

しかし、ISO11228-1（2003）で推奨されている米国のNIOSH lifting equation（米国労働安全衛生研究所の持上げ計算式）を用いたリスクアセスメントを導入する場合、欧米人に比べて、体格の小さな日本人においても、最大取扱い重量値（以下「最大重量値」という。）が欧米人と同様でよいのか、また体力の劣る高年齢労働者においても同様の最大重量値で良いのかを検討する必要がある。

本研究では、定常的に重量物を取扱う作業を対象に、重量物の持上げおよび運搬における最大重量値を明らかにすることを目的とした疫学調査および生体力学的実験を実施し、我が国における最大重量値の提案を目指す。

#### ② 研究実施期間

令和3年度～令和6年度

#### ③ 評価結果

| 評価項目         | 評価内容                                                                                            | 評価点<br>(委員及び専門委員平均) |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 1 目標達成度      | 研究目標が研究実施計画どおりに達成されたか。研究経費が適切に執行されているか。                                                         | 4.1                 |
| 2 行政的・社会的貢献度 | 労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する研究の成果が得られ、行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に反映されたか、又はその予定・可能性はあるか。 | 4.1                 |
| 3 成果の公表      | 学術的に意義のある研究の成果が得られているか。独創性・新規性があるか。学術誌、研究所等の刊行物、国内外の学術会議等における公表が適切に行われているか。                     | 4.2                 |
| 4 協働研究としての視点 | 研究代表者を中心に、機構内の複数施設に所属する職員が互いに連携して研究が行われたか。複数施設の機能が発揮された研究の成果となっているか。                            | 3.8                 |
| 5 その他の視点     | 上記1～4以外の視点（得られた研究の成果の発展性、学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。                          |                     |

|                |                                                                   |     |
|----------------|-------------------------------------------------------------------|-----|
| 6 内部評価の客観性・公正性 | この研究に対する施設内部での事後評価結果は、客観的かつ公正なものであるか。優れた研究の成果を創出できるよう適切に管理されていたか。 | 4.0 |
| 7 総合評価         | 上記 1 ～ 6 を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。                                   | 3.9 |

#### (4)【プロジェクト研究・事後評価】吊り上げ用具類の寿命予測手法の開発

##### ① 研究目的

現在のクレーン用ワイヤロープの廃棄基準の中でも特に断線数による判定については、検査の断線を発見する能力に依存し、かつ、優先的に生じる不可視であるワイヤロープ内部の断線を数えないと正確な評価ができないという問題点を抱えている。本研究では、ワイヤロープS字曲げ疲労試験などを行い、漏洩磁束等を活用したテスターによる検査者の能力に依存しない定量的な寿命予測法の確立を目的とする。特にこれまでは張力が一定の元で疲労試験を実施していたが、本研究では張力が変動する条件下での寿命及び残存強度予測法を確立することを目的とする。

##### サブテーマ1：

変動荷重下におけるワイヤロープの疲労累積損傷評価クレーン用ワイヤロープについて、張力を変動させた疲労試験を行い、累積損傷則の概念に則した余寿命・残存強度を予測する手法を確立する。

##### サブテーマ2：

ワイヤロープ損傷検出による寿命および残存強度予測経年劣化により損傷したワイヤロープの信頼性確保のため、内部断線を含めた断線状態を把握し、残存強度を高精度に予測する手法を検討する。

##### ② 研究実施期間

令和3年度～令和6年度

##### ③ 評価結果

| 評価項目         | 評価内容                                                                                            | 評価点          |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
|              |                                                                                                 | (委員及び専門委員平均) |
| 1 目標達成度      | 研究目標が研究実施計画どおりに達成されたか。<br>研究経費が適切に執行されているか。                                                     | 4.5          |
| 2 行政的・社会的貢献度 | 労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する研究の成果が得られ、行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に反映されたか、又はその予定・可能性はあるか。 | 4.5          |
| 3 成果の公表      | 学術的に意義のある研究の成果が得られているか。独創性・新規性があるか。学術誌、研究所等の刊行物、国内外の学術会議等における公表が適切に行われているか。                     | 4.4          |
| 4 協働研究としての視点 | 研究代表者を中心に、機構内の複数施設に所属する職員が互いに連携して研究が行われたか。複数施設の機能が発揮された研究の成果となっているか。                            |              |

|                |                                                                            |      |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------|------|
| 5 その他の視点       | 上記 1 ～ 4 以外の視点（得られた研究の成果の発展性、学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。 | 4. 2 |
| 6 内部評価の客観性・公正性 | この研究に対する施設内部での事後評価結果は、客観的かつ公正なものであるか。優れた研究の成果を創出できるよう適切に管理されていたか。          | 3. 8 |
| 7 総合評価         | 上記 1 ～ 6 を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。                                            | 4. 4 |

(5) 【協働研究・事後評価】有機粉じん毒性評価のための包括的基盤構築

① 研究目的

種多様なポリマーを基軸とした有機粉じんの毒性評価のための評価系について体系的な情報整理と基礎研究実施による基盤構築を行い、有機粉じんの有害性評価の迅速化・高度化・標準化のためのスクリーニング手法開発及び法令改正に資するエビデンスを集積する事を目的とする。

② 研究実施期間

令和4年度～令和6年度

③ 評価結果

| 評価項目           | 評価内容                                                                                            | 評価点          |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
|                |                                                                                                 | (委員及び専門委員平均) |
| 1 目標達成度        | 研究目標が研究実施計画どおりに達成されたか。<br>研究経費が適切に執行されているか。                                                     | 4.3          |
| 2 行政的・社会的貢献度   | 労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する研究の成果が得られ、行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に反映されたか、又はその予定・可能性はあるか。 | 3.7          |
| 3 成果の公表        | 学術的に意義のある研究の成果が得られているか。独創性・新規性があるか。学術誌、研究所等の刊行物、国内外の学術会議等における公表が適切に行われているか。                     | 4.1          |
| 4 協働研究としての視点   | 研究代表者を中心に、機構内の複数施設に所属する職員が互いに連携して研究が行われたか。複数施設の機能が発揮された研究の成果となっているか。                            | 4.2          |
| 5 その他の視点       | 上記1～4以外の視点（得られた研究の成果の発展性、学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。                          | 4.0          |
| 6 内部評価の客観性・公正性 | この研究に対する施設内部での事後評価結果は、客観的かつ公正なものであるか。優れた研究の成果を創出できるよう適切に管理されていたか。                               |              |
| 7 総合評価         | 上記1～6を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。                                                                     | 4.1          |

**(6)【行政要請研究・事後評価】建設工事における重量物の支持を行う仮設物の安全対策に関する研究**

**① 研究目的**

重量物を支持する仮設物については、現行の安全衛生法令では特段の規制がされていないが、その施工方法や強度の考え方等の安全対策について調査検討を行い、こうした仮設物の崩壊・倒壊防止対策を講じる。

**② 研究実施期間**

令和6年度

**③ 評価結果**

| 評価項目           | 評価内容                                                                                            | 評価点          |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
|                |                                                                                                 | (委員及び専門委員平均) |
| 1 目標達成度        | 研究目標が研究実施計画どおりに達成されたか。<br>研究経費が適切に執行されているか。                                                     | 4.2          |
| 2 行政的・社会的貢献度   | 労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する研究の成果が得られ、行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に反映されたか、又はその予定・可能性はあるか。 | 4.1          |
| 3 成果の公表        | 学術的に意義のある研究の成果が得られているか。独創性・新規性があるか。学術誌、研究所等の刊行物、国内外の学術会議等における公表が適切に行われているか。                     |              |
| 4 協働研究としての視点   | 研究代表者を中心に、機構内の複数施設に所属する職員が互いに連携して研究が行われたか。複数施設の機能が発揮された研究の成果となっているか。                            |              |
| 5 その他の視点       | 上記1～4以外の視点（得られた研究の成果の発展性、学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。                          |              |
| 6 内部評価の客観性・公正性 | この研究に対する施設内部での事後評価結果は、客観的かつ公正なものであるか。優れた研究の成果を創出できるよう適切に管理されていたか。                               |              |
| 7 総合評価         | 上記1～6を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。                                                                     | 4.3          |

(7)【行政要請研究・事後評価】理工系大学等における技術者育成を目的とした安全衛生教育の展開方法についての研究

① 研究目的

労働安全衛生業務は、ハザードやリスクに関する膨大な情報を扱う知識集約型産業の側面が強まりつつあることから、理工系大学等で専門知識を修得した人材の確保が必要な状況にある。

また、労働災害を防止するためには、設計・施工管理等に携わる技術者も、自らの専門業務と労働安全衛生リスクとの関わりを理解していなければならない。人材の育成を念頭においた教育が、将来の技術者となることが想定される理工系の学生等になされるためには専門学科における労働安全衛生教育の具体的な必要性和それを学ぶことでの将来の実益を教育機関及び学生に示し、自発的な教育課程への取り込みを促していく必要がある。

本研究では、知的創造を担い社会全体の共通基盤を形成する公共的役割を有する理工系大学での労働安全衛生に関する教育を実現することを目的に、その具体的方法を検討する。

② 研究実施期間

令和5年度～令和6年度

③ 評価結果

| 評価項目         | 評価内容                                                                                            | 評価点          |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
|              |                                                                                                 | (委員及び専門委員平均) |
| 1 目標達成度      | 研究目標が研究実施計画どおりに達成されたか。<br>研究経費が適切に執行されているか。                                                     | 3.7          |
| 2 行政的・社会的貢献度 | 労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する研究の成果が得られ、行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に反映されたか、又はその予定・可能性はあるか。 | 3.9          |
| 3 成果の公表      | 学術的に意義のある研究の成果が得られているか。独創性・新規性があるか。学術誌、研究所等の刊行物、国内外の学術会議等における公表が適切に行われているか。                     |              |
| 4 協働研究としての視点 | 研究代表者を中心に、機構内の複数施設に所属する職員が互いに連携して研究が行われたか。複数施設の機能が発揮された研究の成果となっているか。                            |              |
| 5 その他の視点     | 上記1～4以外の視点（得られた研究の成果の発展性、学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。                          |              |

|                |                                                                   |     |
|----------------|-------------------------------------------------------------------|-----|
| 6 内部評価の客観性・公正性 | この研究に対する施設内部での事後評価結果は、客観的かつ公正なものであるか。優れた研究の成果を創出できるよう適切に管理されていたか。 |     |
| 7 総合評価         | 上記 1～6 を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。                                     | 3.7 |

## (8)【協働研究・中間評価】行動災害防止に関する総合的研究

### ① 研究目的

本研究は、第三次産業の中でも特に小売業と社会福祉施設を対象とし、行動災害の中で転倒災害に着目して、未然防止のための安全対策を検討する。サブテーマ1「小売業・社会福祉施設における転倒防止に関する研究」では転倒災害の未然防止研究、サブテーマ2「頭部外傷と脳損傷等を伴う重篤な行動災害の予防と被害軽減に関する研究」では転倒発生後の被害軽減について研究する。

二つの研究によって、第14次労働災害防止計画（14次防）のアウトプット指標の提案が可能となり、小売業・社会福祉施設の転倒災害発生率の低減、転倒に伴う頭部外傷や脳損傷等の重篤な行動災害の予防と被害軽減に貢献し、14次防のアウトカム指標の目標達成に資することが本研究の目的である。

### ② 研究実施期間

令和5年度～令和8年度

### ③ 評価結果

| 評価項目            | 評価内容                                                                                            | 評価点          |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
|                 |                                                                                                 | (委員及び専門委員平均) |
| 1 研究の達成度及び今後の計画 | 研究目標が研究実施計画どおりに達成されているか。研究経費が適切に執行されているか。今後の計画は妥当か。                                             | 3.4          |
| 2 行政的・社会的貢献度    | 労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する研究の成果が得られ、行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に反映されたか、又はその予定・可能性はあるか。 | 3.6          |
| 3 協働研究としての視点    | 研究代表者を中心に、機構内の複数施設に所属する職員が互いに連携して研究が行われているか。また、その予定となっているか。                                     | 3.7          |
| 4 その他の視点        | 上記1～3以外の評価内容（学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。                                      | 3.1          |
| 5 総合評価          | 1～4を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。                                                                       | 3.3          |

## (9)【協働研究・中間評価】先進医学解析技術を用いた職業性肺疾患の基盤的研究

### ① 研究目的

近年、ナノマテリアル等新素材の開発で有害性が懸念される新規化学物質は急速に増加している。加えて、有機粉じんを吸い込むことで呼吸器疾患が生じる労働災害が近年日本で発生している点から職業性肺疾患及びじん肺リスクの可能性がある粒子状物質の有害性影響評価を適切に行うことは喫緊の課題である。本研究では、職業性肺疾患の臨床サンプルを用いた包括的なデータベースの構築及び、iPS細胞から分化誘導させた肺臓器構成細胞の特殊培養プラットフォームによる組織のin vitro再構成を行う。

### ② 研究実施期間

令和7年度～令和10年度

### ③ 評価結果

| 評価項目            | 評価内容                                                                                            | 評価点          |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
|                 |                                                                                                 | (委員及び専門委員平均) |
| 1 研究の達成度及び今後の計画 | 研究目標が研究実施計画どおりに達成されているか。研究経費が適切に執行されているか。今後の計画は妥当か。                                             | 4.1          |
| 2 行政的・社会的貢献度    | 労働災害、職業性疾病の予防等に貢献する研究の成果が得られ、行政施策、労働安全衛生関係法令・規格、ガイドライン、行政検討会や行政の対外的説明資料等に反映されたか、又はその予定・可能性はあるか。 | 3.6          |
| 3 協働研究としての視点    | 研究代表者を中心に、機構内の複数施設に所属する職員が互いに連携して研究が行われているか。また、その予定となっているか。                                     | 4.0          |
| 4 その他の視点        | 上記1～3以外の評価内容（学際的視点、研究課題のチャレンジ性、期待されるアウトカム、波及効果など）について評価する。                                      | 4.0          |
| 5 総合評価          | 1～4を踏まえた総合評価結果を点数として記載する。                                                                       | 4.1          |

## Ⅱ 労働安全衛生研究評価部会委員及び専門委員名簿

|      | 機関名                                                              | 職氏名       |
|------|------------------------------------------------------------------|-----------|
| 委員長  | 一般社団法人 京葉人材育成会 名誉会長                                              | 中 村 昌 允   |
| 副委員長 | 東京理科大学 創域理工学研究科 教授                                               | 土 橋 律     |
| 常任委員 | 防衛医科大学校 総合臨床部 名誉教授                                               | 田 中 祐 司   |
| 常任委員 | 近畿大学 法学部 法律学科 教授                                                 | 三 柴 丈 典   |
| 常任委員 | 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 研究環境整備本部<br>環境安全部 チーフセーフティマネージャー              | 和 田 有 司   |
| 常任委員 | 東京慈恵会医科大学 医学部 環境保健医学講座 教授                                        | 須 賀 万 智   |
| 専門委員 | 日本大学 生産工学部 創生デザイン学科 教授                                           | 鳥 居 塚 崇   |
| 専門委員 | 滋賀医科大学 社会医学講座 衛生学部門 特任准教授                                        | 北 原 照 代   |
| 専門委員 | 地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター<br>研究開発本部 機能化学材料技術部 プロセス技術グループ<br>副主任研究員 | 齋 藤 庸 賀   |
| 専門委員 | 神奈川大学 工学部 経営工学科 教授                                               | 高 野 倉 雅 人 |
| 専門委員 | 早稲田大学 人間科学学術院 人間科学部 教授                                           | 加 藤 麻 樹   |
| 専門委員 | 東北大学大学院 工学研究科 ファインメカニクス専攻<br>ナノメカニクス講座 教授                        | 山 口 健     |
| 専門委員 | 東京電機大学 工学部 機械工学科 特定教授                                            | 辻 裕 一     |
| 専門委員 | 群馬大学大学院 名誉教授                                                     | 松 原 雅 昭   |
| 専門委員 | ものづくり大学 非常勤講師                                                    | 須 藤 英 明   |
| 専門委員 | 三重大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授                                           | 三 田 紀 行   |

|      |                             |         |
|------|-----------------------------|---------|
| 専門委員 | 公益財団法人結核予防会 複十字病院 院長        | 工 藤 翔 二 |
| 専門委員 | 北里大学 名誉教授                   | 相 澤 好 治 |
| 専門委員 | 滋賀医科大学 生理学講座 統合臓器生理学部門 教授   | 等 誠 司   |
| 専門委員 | 中部大学 生命健康科学部 保健看護学科 教授      | 城 憲 秀   |
| 専門委員 | 産業医科大学 産業生態科学研究所 人間工学研究室 教授 | 榎 原 毅   |
| 専門委員 | 長岡技術科学大学 システム安全工学系 教授       | 三 好 孝 典 |
| 専門委員 | 東京都市大学 建築都市デザイン学部 都市工学科 教授  | 伊 藤 和 也 |